

○事業所名	インクルー日立教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日 ~		2026年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日 ~		2026年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月実施される職員向けの運動研修を受講することで、利用児に期待出来る効果や発達に合わせた難易度の調整、介助の仕方や応用のポイント等、学ぶことが出来る為、より安全に運動が提供され、翌月への運動へ繋がられる。	運動研修に参加することで、介助の仕方やサポートする為の動きを理解することが出来る。	今後も運動研修を実施し、職員間で理解する。
2	のびのびと運動できるスペースと、療育(座学)のスペースを分けて活動することにより、子ども達が落ち着いて生活できるよう配慮している。	児発と放デイの活動スペースを分けて個別の課題等に取り組んでいる。	職員間で定期的に、利用児の様子や現状の意見交換・情報共有のミーティングを重ねながら、支援の内容の向上に繋がるよう努めている。
3	近隣にコミセンや公園があり、虫探しや散歩を楽しんでいる。	新規の利用児に伝えるためにも、避難ルートを確認しながら散歩を取り入れている。	入職した職員にも、早急に避難場所等を把握してもらえよう、実際に避難経路を歩きながら確認等する時間を確保していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	乗車スペースとされている駐車場が狭く、他事業所の車両も多い為、場合によっては駐車できず引き取り時間が遅くなってしまう事もある。	満車の際は、他のスペースの駐車も許可していただけないか小学校に相談する。	別の駐車場を使用する際の、駐車許可証発行待ちとなっているが、なかなか連絡がこない為、再度確認する。
2	家庭からは個別の課題に時間に、少しでも学校の宿題やわからない箇所を教えてほしいと要望があるが、本児は学校に教科書類をすべて置いてきてしまう。	学校に迎えに行った際、職員が教科書(ドリル)等がランドセルに入っているか確認する。	教室を出る際、学校の担任(職員)からも声をかけてもらう等、協力を依頼する。
3	利用児の気分や送迎担当の職員によって、隠れて下校してしまう。	本児の気持ちに寄り添い、事業所を楽しんでもらえるよう簡単な内容から取り入れる。	門まで、学校職員が利用児を連れて来て、当教室の職員へ引き渡してもらうよう依頼している。

事業所における自己評価総括表_児童発達支援

○事業所名	インクルー日立教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日 ～		2026年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日 ～		2026年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月実施される職員向けの運動研修を受講することで、利用児に期待出来る効果や発達に合わせた難易度の調整、介助の仕方や応用のポイント等、学ぶことが出来る為、より安全に運動が提供され、翌月への運動へ繋げられる。	運動研修に参加することで、介助の仕方やサポートする為の動きを理解することが出来る。	今後も運動研修を実施し、職員間で理解する。
2	のびのびと運動できるスペースと、療育(座学)のスペースを分けて活動することにより、子ども達が落ち着いて生活できるよう配慮している。また、個別課題の時間は児発と放デイの利用児を分けて活動している。	個別課題の時間配分は、放デイの利用児より短く設定し、様子を見ながら小精鋭している。	個別課題は個々の発達や理解力に合わせた内容を充実させる。
3	近隣にコミセンや公園があり、虫探しや散歩を楽しんでいる。	新規の利用児に伝えるためにも、避難ルートを確認しながら散歩を取り入れている。	入職した職員にも、早急に避難場所等を把握してもらえよう、実際に避難経路を歩きながら確認等する時間を確保していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	男性職員と女児(1名のみ)の送迎のあり方	太田方面の送迎の際、通常より長い時間がかかる。(男性職員と女児だけの空間に不安があると保護者が相談員に相談していた。)	できるだけ、女性職員が長距離の送迎を行い、保護者の不安を軽減できるよう努める。
2	他国籍の利用児が在籍している。保護者も含め、言葉の理解等が乏しく、連絡や伝達等に苦戦している。	繰り返しお伝えする内容のものは、ポルトガル語で持ち物や要件を記載する。	本児も認識ができるようイラストをつける。
3			

事業所における自己評価総括表_保育所等訪問支援

○事業所名	インクルー日立教室		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日		令和8年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	0
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 1日		令和8年 3月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	1
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 3月 1日		令和8年 3月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	1 (回答数)	0
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様のニーズと学校現場の現実的なズレに対するアプローチ力	開始前のアセスメント、実際に訪問が始まってからも必要に応じて保護者様、学校、園との連絡を増やして、双方の間でのズレを解消できるように中間の立場となれる所です。	必要な情報、希望を的確に確認する機会を惜しみません。お子様の状況変化があればその都度での考察、実行、共有を行い、支援の精度を高めていきたいです。
2	訪問先の学校、園との信頼関係の構築。	先生とお子様の情報共有にも力を入れています。保護者様から聞いた情報、実際の学校でのご様子で整合性を考えたり、それぞれの立場の視点になって考察と目標を作っています。	事前に聞いたこと、実際に訪問した際にズレのようなものを感じる時もあります。それをどのようにすれば解消できるか、目標に繋げられるか、などをこれからも考えて実行に移したいです。
3	保護者様と学校、園との懸け橋になれるような所。	上記と似ている所もあります。保護者様の気持ち、学校からの思い、双方の意見を取り入れながら進めていけたらと思っています。	「保護者様と学校、双方の橋渡しとして、より円滑なコミュニケーションを促進できるよう努めます。お子様にとって最適な環境作りを目指し、関係各所との連携の質をさらに深め、共通認識を持って支援を継続できる体制を整えていきたいです。」

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様からの目標、園、学校からの現実的なズレに対してのアプローチ力。	保護者様の希望と学校側の体制や方針に乖離がある場合、双方の妥協点を見出す調整に時間を要することがある。	定期的な三者間(保護者・学校・事業所)の連絡機会を増やし、双方の意向を早期にすり合わせることで、支援のズレを解消する。
2	訪問スタッフの教育。	訪問先での状況判断や、学校の先生方への適切な助言・共有には、より高度な観察眼と伝達スキルが求められるため。	お子様の状況変化に基づいた考察・実行・共有のサイクルを徹底し、ケーススタディ等を通じてスタッフ間の支援の精度を高める。
3	学校、園からネガティブな印象を受けた時の対処法。	訪問支援が学校側の負担と感じられたり、信頼関係の構築が不十分な段階では、意見の集約が困難になる場合がある。	「中間の立場」としての役割を意識し、先生方の視点にも寄り添った目標設定を行う。まずは信頼関係の構築を最優先し、情報共有の密度を上げる。